

▼令和5年度

森林総合研究所公開講演会

持続可能な豊かな森を築く

— 資源を提供してくれる森を築くために今必要な事 —

日時：令和5年10月11日（水）

13時から16時40分

会場：一橋大学 一橋講堂（東京都千代田区一ツ橋2丁目1番2号 学術総合センター2階）

参加無料・事前登録不要



急峻な斜面における人工林の林業

ります。この原因としては造林保育の経費、素材生産・流通の経費、国際経済の中での木材の価格等、一辺倒では解決できない多数の問題を含んでいます。今回はこの問題に對峙すべく始まった最新の研究を紹介いたします。

＜講演プログラム＞

●講演

イントロダクション

— 日本の針葉樹人工林の現状を正しく理解する —

宇都木 玄（研究ディレクター）

育林作業の省力化に向けて

— 最先端の技術と考え方 —

山川 博美（九州支所 森林生態系研究グループ 主任研究員）

素材生産技術の高度化

— ここまできた林業機械の自動化 —

中澤 昌彦（林業工学研究領域 収穫システム研究室 室長）

世界の情勢に左右される木材の価値

— 国際市場における日本の在り方 —

早船 真智（林業経営・政策研究領域 研究員）

針葉樹だけで良いのか

— 立木の付加価値、広葉樹利用の温故知新 —

山下 直子（関西支所 森林生態系研究グループ 長）

時間軸も考慮した資源管理

— 自立できる山づくりのために —

中尾 勝洋（関西支所 森林生態系研究グループ 主任研究員）

●ポスター発表

パネルディスカッション

「木材利用を行う森林のために、その理想像は 予定調和は成り立つのか」



昨年のポスター発表の様子

森林総合研究所プレスリリース

北日本の主要樹種の寿命を推定

— 天然林の再生のための重要情報 —

多様な樹種からなる森林の成り立ちを理解し、その行く末を予測するには、それぞれの樹種の寿命を知ることが重要です。しかし、これまで

科学的に信頼できるまとまった情報はありませんでした。森林総合研究所の研究グループは、北日本の天然の大径材が単一の木材市場に集荷されてきた1990年代半ばに、42樹種・計1684本の丸太の太さと年輪を調べ、そのデータから樹種ごとの寿命と最大径を推定することに成功しました。

調査によると、樹木の寿命と最大径は樹種によって大きく異なることがわかりました。トチノキ、ミズナラ、ハリギリの寿命は約700年以上で最も長く、ミズキ、シラカンバ、ドロノキ等の寿命は最も短い約100年以上、北日本の天然林を代表するブナやハルニレは中間の約400〜500年以上でした。



岩手県矢巾町の木材市場で大径木1684本の年輪を数えた（撮影：正木隆）

現在、日本では人工林の一部を広葉樹林に還元する取り組みも行われています。真に原生的な、より自然に近い姿の森林を再生するには、400〜700年におよぶ超長期的なビジョンが必要とされるでしょう。（本研究成果は、2023年5月10日「Journal of Forest Research」誌でオンライン公開されました）

＜持続可能な開発目標（SDGs）＞

森林総合研究所は、森林・林業・木材産業等の幅広い研究を通して、国連の持続可能な開発目標（SDGs）の達成に積極的に貢献しています。該当する目標と記事のページ数は、左記の通りです。



P.3, 8



P.8, 14



P.8, 14



P.18



P.16



P.3, 8, 14, 16, 18, 20



プレスリリース等の最新情報はこちらから→

<https://www.ffpri.affrc.go.jp/index-r.html>

お問い合わせ

森林総合研究所

企画部 広報普及科 広報係

TEL 029-829-8372

Email kouho@ffpri.affrc.go.jp

